

脚から健康作りを

定価 340YEN

hamaak

Ken Dome

- リフレクソロジー
- フットケア
- 自分で脚の疲れをとる
- むくみ
- 脚・足の病気
- ウォーキング
- 靴選び
- 水虫・ウオノメ・タコ
- O脚・X脚
- 冷え
- ひきしめ
- なま脚対策

脚の正しいケアが
美と健康の素!

脚のトラブル・悩み徹底チェック。



昭和58年7月22日発行 毎週水曜日発行
昭和59年5月15日第三種郵便物認可

ますます好調! 30代からのファッション実用マガジン—ドマーニ

Damani

AUGUST 1

8

A Monthly Magaz
for Non-age Career

両な事実を強みに変える

50cm台の、 夏の着こなし 貴金バランス

ジャケットなしでもきれい!
インナー13の着回し

遊びワンピースで華やぐ

り切れ必至
& バッグ新作ニュース

コンパクト・ジュエリーで
コルテ美人になる!

暑に耐えるロングランメイク

7&ライブインタビュー
ヤン・レノ

30代の休日服、 強化アイテムの結晶

■旅先で活躍ノーストレッチ・ロングスカート ■リゾートに映えるハイカラー・シルクの美人
■友人を招く日の落ち感パンツ ■レストランに行かぬならロング・ジャケット ■今年

記AIDS 慈善チャリティ

上スリーマーケット

込み保存版 全店詳細マップ付

e event



今月のイチオシイベント

ミハイル・バリシニコフ & 坂東玉三郎

常に新しい舞踏表現を探る
2大スターの共演に期待

SCHEDULE

8月5日～27日銀座セゾン劇場
10 11 17 20 24日5時開演
問い合わせ ☎03-3536-0555

バリシニコフと玉三郎の共演と聞いて、心躍らないダンスファンはいないだろう。その夢の舞台がこの夏実現する。旧ソ連生まれのバリシニコフは亡命後、主にアメリカを拠点に活動。現在は自身のモダンダンスのプロジェクトを中心に活動する天才ダンサー。玉三郎も歌舞伎の枠にとどまらず、創作舞踊や現代劇、映画の監督、舞台の演出とその活動は多岐にわたる。玉三郎はこれまでもパトリック・デュボンやルシヨルジュ・ドンらとのコラボレーション作品を発表し、高い評価を受けている。今回のプログラムはふたりのソロと、新しく振り付けの共演作品の計5、6作で構成される予定。ふたりの出会いが生む、あらたな舞踏表現に今から期待が高まる。



Brotherhood Table II Automata(1990)

このアートを見に行こう

文 林 寿美

川井雅記念美術館 学芸員

ウッディ・ヴァスルカーザ・ブラザーフッド

Brotherhood Table II Automata

人間と機械、現実と仮想が入り交じる空間とは

現代生活において機械が私たちと共存していることはいうまでもありません。それは、日々の暮らしの隅々に入り込んだだけでなく、すでに環境と化したといっても過言ではないでしょう。

「自動操縦」と名付けられたこのインスタレーションは、アートという場でそのことを実感させてくれるはず。部屋の中央に据えられた宇宙衛星ロボットのような機械は、自由自在に回転しながら映像と音を操って、ニュー・メディア独特の空間を演出していきます。

自分の体が紛れもなく存在する「現実の空間」と、機械が創造する「仮想の空間」。このふたつの空間は、巧みに交錯させられることでだいに浸食し合い、未踏の場所をつくり出していくのです。

●ウッディ・ヴァスルカーザ/1937年旧チェコスロバキア生まれ。メディアアーティスト。今回、日本初の本格的個展。
●会期/7月17日～8月30日 会場/NTTインターコミュニケーションセンター 問い合わせ ☎0120-144199

今月の展覧会・コンサート・ステージ

ART

フンデルトワッサーの世界展

現代オーストリアを代表する芸術家フンデルトワッサーが、初期の水彩から最新作まで自ら作品を選定し、制作活動の軌跡を辿る。7月1日～27日伊勢丹美術館 問い合わせ ☎03-3352-1111 入場料/¥1,000



©1998 Gruener Janura AG, Glarus Switzerland.
30日ファックス・ペインティング・ミクストメディア・ペインティング 151×130 ウィーン、1994 個人蔵

「大英国展」～大英科学博物館展と英国ライフスタイル展

ガーデニング、紅茶、不思議の国のアリスからスティーブソンの蒸気機関車まで英国の魅力を多角的に紹介。7月22日～8月30日東京国際フォーラム 問い合わせ/大英国展事務局 ☎03-3231-5354 入場料/¥2,000



「ミントン」 ヒクトリア王に納められたデザート 演器「カスケードスタン」

CONCERT

大野和士と草刈民代の(バレエ音楽の世界)

トーク・ゲストに人気ダンサー草刈民代を迎え、気鋭の指揮者大野和士& 東フィルが「ボレロ」「火の鳥」などを演奏。9月1日サントリーホール 問い合わせ/東京フィルチケットサービス ☎03-5353-9522



モーストリー モーツァルト'98

8回目を迎える夏の人気企画。メゾ・ソプラノのズザンヌ・メンツァー(写真)、ピアノのアンドレ・ワッツほか実力派ソリストが来日。8月28日～9月4日Bunkamura オーチャードホール 問い合わせ ☎03-3477-9999



STAGE

身毒丸

昨秋、ロンドン公演で絶賛された白石加代子、藤原竜也主演の舞台が待望の凱旋公演を行う。寺山修司の原作を、蛭川幸雄が演出。7月3日～20日Bunkamuraシアターコクーン 問い合わせ/メジャーリーグ ☎03-5371-4390



ザ・コンボイ・ショー



即日完売だった昨年の公演に続き、芝居あり、歌あり、ダンスあり、お笑いありのエンターテインメント集団が繰り広げるパフォーマンスショー。7月29日～8月22日赤坂プリンスホテルクリスタルパレス 問い合わせ ☎03-3234-111

ぴあ



ひびき 25周年

@ひびき

PIA world just for me

URL: <http://www.pia.co.jp/>

7.16
定価 300円
毎週月曜刊

映画は今週、ついに公開!!
新・ゴジラ
グッズも解禁だ!

フィギュアはもちろん、戦闘メカも大充実
「GODZILLA」モノに注目せよ

前売りスタート!

Jリーグ
2ndステージ

今週はベルマーレ平塚、横浜マリノス、ヴェルディ川崎だ!

今週のドラマはNYが舞台

三谷幸喜
が語る

「風等なんかに負けるもんか」

カンパレNOMO!

野茂英雄と

メッツの“愉快な”

仲間たち

ピアサ、吉井と目指せ、優勝!

「ドリーム

ビッグビンゴ」

2300名様に

総額265万円

をプレゼント

情報誌初の3号連続企画

この人

MAX

榎本加奈子

唐沢寿明



Hotel
AMIGO



いま、男なら素直に

ぴあスーパーライブ! ぴあ読者先行予約+インタビュー
武道館×2公演
横浜アリーナ×1公演

On-line Service

チケット
ぴあ

03-5237-9999

「篠原勝之」展

KUMA'S GARDEN GLASS MEETS STEEL

7/1~8/2 キリンアールスペース原宿 ☎03-5485-6321
●11時~19時 会期中無休 ①一般 ¥500



これまでに900点以上の鉄の作品をつくってきたクマさんのアートは、内モンゴルやインドにも置かれている。昨年には絵本「鉄のおもいで」を出版。今月28日まで京都駅にある美術館「えき」KYOTOでも展覧会が開催されている。

炎と一緒に湧き上がる、クマさんの闇と光の世界。

美術ジャーナリスト 赤坂英人

「エッ、あのクマさんって本当に芸術家なのか」という人もいるかもしれないが、1942年に北海道の札幌で生まれ、鉄の街・室蘭に育った「クマさん」こと篠原勝之は絵本、絵画、舞台美術、小説、そして彫刻と多方面で活躍する本物の「ゲージツ家」である。

美術家には故池田満寿夫や赤瀬川原平のように美術という領域を越えて、ジャングルを縦横に構断する人がいるが、クマさんも現代のそうした才人の一人だ。

かつてクマさんの小説を読んで、その語り口の面白さと着眼点のユニークさに唖ったことがある。また、その後見た溶接機を使って作り上げた鉄の作品は、一気に本質に迫る

「アーティスト」クマさんの本領を見せつけるものだった。

「オレはフォルムのなかに生きたいわけじゃねえんだよな。風、土、火水。そういう地球の根源的な物質と鉄を呼吸させることなんだよな。とくに火、炎だな。圧倒的な分子を内在させた鉄の塊に火炎がぶつかっていく。そのなかにオレがいる。溶けた鉄はイメージの言葉みたいなもので、縄文人のような魂の強いエネルギーが、炎と一緒に湧き上がって来るんだ。それが「ゲージツ」ってわけだな」という。

さすが「溶接機の街」といわれた室蘭育ちらしい言い方だ。クマさんは真正面からのエネルギーと物質のぶつかり合いを今も目指している。

現代人が失ってしまった火や土と関わる筋力を、彼はまだ持ち続けているのだ。あの坊主頭に着流しという彼の風貌は、コンピュータがすべてを管理しようとする時代に逆らうように、僕は好きだ。テレビでのユーモラスで流けを無視した直感的な喋り方もいい。

クマさんが北の大地で育んだ感受性を全開させて開く今回の「篠原勝之展」は、鉄とともに、新たにガラスを使ったダイナミックでかつ繊細な作品が数多く出品される。近左、山梨県の甲斐駒ヶ岳山麓にアトリエ「FACTORY」を構えて創作活動をしている彼が見いだしたのが、北国の透明で激しい風の光のような感性を宿すガラスだった。

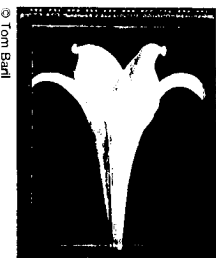
「いま一番興味あるのは、オレたちを取り囲む無数の光の粒粒。アールヌーボーとか、そんな工芸品じゃなく、光と火なんだよな。鉄は闇を溜め込んだ重量を持っているし、ガラスはそこに光があればそれを宿す。しかもガラスを加工するにも圧倒的な火を使う。ガラスというものを媒介にした光と火の関係のなかに、オレ自身しばらく身を浸してみようかと思っているわけだ」

1400度の炉で「鉄」を溶解してきたクマさんが、いま無限の光を求めて「ガラス」を溶かした。流動する輝く液体は、少しずつ冷やされ、研磨され、内に光をたくわえた透明な結晶体となってこの世に姿を現す。それが現代の「錬金術師」篠原勝之がつくり出した光る鉄「ガラス・アート」の世界である。

「トム・バリル写真展—インプレッションズ」

洗練された技術と「紅茶」が生む、90年代の「ニューヨーク新写真」。

あの80年代の伝説的写真家ロバート・メイブルソープのスタジオで、専属プリンターをしていたキャリアを持つ、今ニューヨークで話題の写真家トム・バリルの日本初個展が開かれる。1994年にピンホール・カメラを使った撮影を開始、プリントの仕上げに「紅茶」を使うという手法を見つけた。完璧な技術で仕上げられた彼の静謐で絵画的写真は



© Tom Baril

現在注目の的。昨年出版された写真集は売り切れ状態という売れっ子写真家だ。

“Lily: 1995”ゼラチンシルバー・プリント51.0×66.0cm。仕上げに紅茶を使った写真は、メイブルソープとはまったく正反対の観想的個性を、リアルに表現している。

7/24まで パーソウ・フォト・ギャラリー
☎03-3478-4375

「フランク・ステラ／ケネス・タイラー構築する版画」展

巨匠とプリンター、その革命的軌跡。



フランク・ステラ「ベルグーサ・スリー」(サーキット・シリーズより)1983年/ミクス・メディア版画 167.6×132.1cm。鮮やかな色彩とクロスする抽象的構図がダイナミズムを伝える作品。

© Frank Stella/Tyler Graphics Ltd./ARS, New York/SPDA, Tokyo CCGA 所蔵

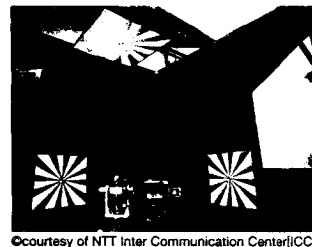
アメリカ美術の巨匠フランク・ステラは60年代から今日まで、ミニマルズムの絵画から色彩が乱舞する立体作品まで、さまざまな様式で作品を発表してきた。そのステラの不可欠のメディアである版画制作を支えてきた刷り師、ケネス・タイラーとの30年におよぶ共同製作の軌跡を振り返るプロジェクト。二人が作り出す革新的作品はまさに驚きの連続だ。

7/26まで 町田市立国際版画美術館
☎0427-26-2771 ●9時~16時30分(入場は16時まで)
ただし7月中の土・日曜日は17時30分(入場は17時まで)

ウッディ・ヴァスルカ「ザ・ブラザーフード」展

メディアが解体する「男性原理」。

旧チェコスロバキア出身のメディア・アート界のベテラン、ウッディ・ヴァスルカの大規模な展覧会。アメリカの軍事研究所などから廃棄された素材を用いた「ザ・ブラザーフード」のインスタレーションは、暴力的な「男性原理」とテクノロジーの関係を暴く傑作として国際的に評価が高いものだ。



Courtesy of NTT Inter Communication Center[ICC]

ウッディ・ヴァスルカ「ザ・ブラザーフード」(1990)。作家自身も来日してレクチャーも開かれる。

7/17~8/30 NTTインターコミュニケーション・センター(ICC)
(東京オペラシティタワー4階)
☎0120-144199(受付時間10時~18時)
●10時~18時(金曜日のみ21時まで)

美術館

7.27

定価 300円(税込)
毎週月曜刊

W e e k l y
ぴあ

現代時代にそれまでの木橋 写真をプリントし、水墨などで描
いたモノクロをベースにした作

今週1stステージ再開!
小野伸二インタビュー付き

**リーグ
新時代**

ブレイクまでの短い道のり
3年間を写真でたどる
やっぱりカッコイイ

金城 武

フランス、香港
そしてクアムに出現

小室哲哉の

忙しすぎる日々

なぜか恵比寿で
ライブ対決!

**スチャダラパー vs
TOKYO No.1
SOUL SET**

この人

DA PUMP

パイレーツ
金子 賢

お読者だけのチャンス!
先行予約申込書

☆おまけ☆**スーパーリーグ・ブックレット**

黒夢



見せます!
打ち上げます!

8月の花火大会

神宮外苑花火大会 / 東京湾華火大会など

ART

@ぴあ

PIA world just for me
URL: <http://www.pia.co.jp/>
on-line Service

インターコミュニケーション・センター
蔵書
No. 3491-98.7.27

ぴあ
03-3497-9999

◆愛知：19日まで、やよい画廊(一宮市本町)。

◆市川義忠米寿記念個展(二宮市本町)。

◆市川章三展(20日まで、ギャラリーるぼ)(一宮市本町四、ルボテンサンビル三階)。絵画。

◆木曾御殿の瀉写真展(25日まで、一宮市立豊島図書館(本町通八))。

◆佐々木麻展(26日まで、美術館松松堂(豊田市若林東町東山))。油彩など。21日休み。

◆森岡完介版画展(17日、シャインズホール(刈谷市東陽町))。

◆竹河いみ子展(20日まで、画廊じんがら(知立市新富二、セントラルプラザ五階))。

◆早川比呂紀陶展(20日まで、豊蔵資料館(可児市久々利大道))。金土、日曜、祝日開館。

◆紙の水族館・杉井清二の世界(8月31日まで、美濃和紙の里会館(美濃市蔵生))。有料。火曜休み。

◆三重：横山欣司陶展(19日まで、ギャラリー・マモン(津市大門、Pitche rs三階))。

◆戸田守重展(17-22日、山面廊(四日市市安島二、南川レル二階))。陶芸。

◆静岡：地元作家によるマイナー展(第3期、21日まで、由美画廊(浜松市大工町、アートユミビル2階))。油彩。

◆清涼展(28日まで、天象堂画廊(浜松市上島))。絵画。

◆白水博子彫刻展(19日まで、ラウコレクションギャラリー(千種区山門町一、覚王山ヒルズ))。角有伊クレイワーク展。ギャラリー蓮田で同時開催。

◆ロンクバート同開館。

◆丸の内画廊(中区丸の内二、KSRビル五階)。

◆荒川友喜・野田基広・齋藤根三人展(20日まで、あお牛美術(伏見通、御園座地下一階))。陶芸。

◆'98 JPS展名古屋展(20日まで、県美術館ギャラリー(栄、愛知芸術文化センター))。写真。有料。ほかに寛水展、陶風展、愛知独

◆きりえ2人展(22日まで、ギャラリー坂角(東山動物園前))。月曜休み。

◆浅島裕志個展(23日まで、中国染付逸品展(25日まで、橋本美術(中区栄三、アイマン三、アイマン三、アイマン三))。大津三階。祝日開館。

◆黒木千里展(24日まで、ギャラリー名古屋陶磁器会館東区徳川二))。陶芸。

◆田淵俊夫「鳳凰堂」(夢、築きます) = 古川美術館(25日まで、ガ



田淵俊夫「鳳凰堂」(夢、築きます) = 古川美術館

●主な美術館・博物館の催し●

中部

愛知県美術館(名古屋・栄) ☎052(971)5511	ナイアガラの虹を越えて…オルブライト=ノックス美術展(8月2日まで)大人1100円。月曜(20日を除く)、21日休館。
名古屋市博物館(瑞穂区瑞穂通1) ☎052(853)2655	日本の心 富士の美展(8月23日まで) 絵画、書籍、工芸、衣装など約200点。大人1100円。月曜(20日を除く)、21、28日休館。
松坂屋美術館(名古屋・栄) ☎052(264)3611	バルビゾン派の画家たち展(26日まで) ニューヨーク・ブルックリン美術館所蔵の約80点。大人1000円。会期中無休。
徳川美術館(東区徳川町) ☎052(935)6262	将軍慶喜と徳川家の人々(18-8月30日) 慶喜所用の「卯花威胴丸具足」ほか。大人1200円。月曜(20日を除く)、21日休館。
古川美術館(千種区池下町) ☎052(763)1991	夢、築きます(8月23日まで)和洋さまざまな建築風景画40点。田淵俊夫ほか。大人700円。月曜(20日を除く)、21日休館。
メナード美術館(小牧市小牧5) ☎0568(75)5787	フランスと美術(9月6日まで) マネ、マチス、ブラック、藤島武二、佐伯祐三ほか。大人700円。27、8月24日休館。
愛知県陶磁資料館(瀬戸市南山口町) ☎0561(84)7474	現代の陶芸一欧米と日本(8月2日まで) 加藤唐九郎、六代清水六兵衛ほか。大人400円。月曜(20日を除く)、21日休館。
名都美術館(愛知県長久手町) ☎0561(62)8884	京都市立芸術大学所蔵名品による 京都画壇 先人の歩み(8月2日まで) 大人1000円。月曜(20日を除く)、21日休館。
師勝町歴史民俗資料館(愛知県師勝町) ☎0568(25)3600	昭和家事・子育て奮戦記(9月29日まで) 昭和30年代の電化製品など。無料。月曜、19、31、8月16、30、9月20日休館。
豊田市美術館(小坂本町8) ☎0565(34)6610	なぜ、これがアートなの? (21-9月23日) 絵画、彫刻、インスタレーションなど20世紀代表作約40点。大人1000円。月曜休館。
杉本美術館(愛知県美浜町美浜緑苑1) ☎0569(88)5171	企画展「秘苑」(9月15日まで) 韓国の名庭園をモチーフに。代表作品展同時開催。ソウルでの写生など。大人900円。水曜休館。
岡崎市美術館(岡崎中央総合公園) ☎0564(28)5000	幕末明治の天才絵師・河鍋晓斎展(20日まで) 本画約50点をはじめ下絵や戯画・狂画、版画・版本など。大人800円。
三重県立美術館(津市大谷町) ☎059(227)2100	ピサロ展(26日まで) 初期から晩年までを油彩、水彩約70点で回顧。「ジョリーおぼさん」ほか。大人1000円。21日休館。
かめやま美術館(豊	瀬海五拾三夜展(8月21日まで)

富士美術館(富士宮市上条) ☎0544(58)2550	加賀路の出会い—魯山人と青華(8月27日まで) 魯山人の作陶の原点を探る200点。大人950円。月曜(20日を除く)、21日休館。
滋賀県立近代美術館(大津市瀬田大道町) ☎077(522)8600	リキテンスタイン版画の宇宙1948—1997展(8月16日まで) 代表作90点で回顧。大人1000円。月曜(20日を除く)、21日休館。
滋賀県立琵琶湖博物館(草津市下物町) ☎077(568)4811	近江はトンボの宝庫(18-9月23日) 5年間の調査、研究を紹介。大人700円。月曜(20日を除く)、21、9月8-11、16日休館。
長野県伊那文化会館(伊那市春日公園) ☎0265(73)8822	不破車の水彩画世界と信州の美術(18-8月23日) 池上秀敏、小山敏三ほか。大人500円。月曜(20日を除く)、21、22日休館。

関東

東京都写真美術館(目黒区三田1) ☎03(3280)0031	エレクトロニカリー・ユアーズ 電子時代の新たな肖像(8月26日まで) 大人600円。月曜(20日を除く)、21日休館。
安田火災東郷青児美術館(新宿区西新宿1) ☎03(3272)8600	現代ポタニカル・アート展—草花の麗しきポートレート(8月23日まで) 厳選の150点。大人800円。月曜(20日を除く)休館。
サントリー美術館(港区元赤坂1) ☎03(3470)1073	樂茶碗の400年・伝統と創造展(8月9日まで) 初代長次郎を含む樂家歴代の代表作を。大人1000円。月曜(20日を除く)休館。
ICC(新宿区・東京オペラシティタワー) ☎(0120)144199	ウッディ・ヴァスルカ「ブラザーフッド」展(17-8月30日) メディア・アート。大人800円。月曜(20日を除く)21、8月2日休館。
横浜美術館(横浜西区みなとみらい) ☎045(221)0300	イタリア現代具象彫刻のマエストロ ヴェナンツォ・クロチェッティ展(9月13日まで) 大人900円。木曜、21日休館。

近畿

京都国立近代美術館(岡崎公園) ☎075(761)4111	森村泰昌【空装美術館】絵画になった私(8月2日まで) 大人1200円。月曜(20日を除く)、21日休館。
京都文化博物館(京都市中京区三条高倉) ☎075(222)0888	越前朝倉氏—乗谷一眠りからさめた戦国の城下町(8月11日まで) 350点の考古資料と古文書、絵画などを展示。大人1000円。
奈良国立博物館(奈良市登大路町) ☎0742(22)3331	ブッタ・大なる旅路展(8月30日まで) 門外不出の秘宝「カニシカ舍利容器」など。大人1200円。月曜(20日を除く)、21日休館。

◆日比野由利子陶展 26 火曜休み。
◆渡辺英司新展 8月9-17日休み。568(2)

1 9 9 8

EVENT TOKYO

8-9 月号

V O L . 7

●便利で役立つ・カテゴリー別

3・9月の
注目イベントガイド

WORLD PC EXPO 98

第36回アミューズメント
マシンショー

Internet World
JAPAN '98

AUTO ASIA '98

etc.

3・9月のイベント
カレンダー

便利な展示会場
アクセスマップ付き

大好評

要Check!!

イベント入場券
プレゼント!!

アフター
コンベンション

パシフィコ横浜周辺
注目スポット

特集

サマーイベント 夏のレジャー& 盛りだくさん!

アミューズメントガイド



読者アンケート (8・9月号)

FAX.03-5569-1503
イベント東京編集室宛

「もっと展示イベント情報が知りたい!」という声をもとに誕生した『イベント東京』は、現在首都圏主要4展示会場が、インフォメーション等にて同時配布しているまったく新しいタイプのビジネス情報誌です。『イベント東京』は今後も、イベントをグッと盛り上げるため、読者の皆さまのご意見・ご感想をリアルタイムで反映していきたいと考えています。

年間購読のご案内
毎号確実に入手したいという多数の読者のご要望に応じて、年間購読サービスも始めております。ご希望の方は、下記アンケート用紙にてご連絡ください。後日詳しい資料をお送りいたします。(頒布価格240円+送料6回分で2,400円)

読者プレゼント
プレゼント(P.14~P.15)をご希望の方は、下記読者アンケートにもれなくご記入の上、ご希望の商品の番号にしるしをつけてFAXにてお送りください。なお当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。宛先:イベント東京編集室「読者プレゼント係」締め切り:平成10年8月末日

※このページにもれなくご記入の上、コピーしてA4サイズのままFAXにてお送りください。

<p>①本誌をどこで入手しましたか? 【展示場】東京ビッグサイト 幕張メッセ パシフィコ横浜 コンベンションセンターTOKYO 東京国際フォーラム ご覧になった展示会名 () 【その他】・年間購読者 ・それ以外 ()</p>	<p>⑨本誌に対するご意見、ご感想をお聞かせください</p>		
<p>②「イベント東京」の印象をお聞かせください。 面白い 役に立つ もの足りない つまらない どちらでもない</p>	<p>(フリガナ) 氏名</p>	<p>年齢 歳</p>	<p>性別 男・女</p>
<p>③記事中で興味を持ったものは何ですか? ・イベントカレンダー ・展示会場周辺スポット ・特集/ホテルガイド ・東京発ふるさと巡りの旅 ・注目イベントガイド ・特集/夏のレジャー&アミューズメントガイド ・EVENT TOKYO NEWS</p>	<p>勤務先</p>	<p>部署名</p>	
<p>④今後特集で読んでみたいジャンルがあればお聞かせください。</p>	<p>勤務先 TEL</p>	<p>勤務先住所 〒</p>	
<p>⑤普段購読している雑誌は? () () () ()</p>	<p>(e-mail) 今お使いのパソコンは何ですか? (○をおつけください) ・WINDOWS ・MAC ・その他のコンピュータ ・使わない どちらでお使いですか? (複数回答可) ・会社で ・家で ・外出先で</p>		
<p>⑥展示会に年間どのくらい来場しますか? (○をおつけください) 1回 2回 3回 5回以上 10回以上</p>	<p>※プレゼント・資料送付先住所が個人自宅となる場合のみ住所はこちらにご記入ください 〒 TEL</p>		
<p>⑦ご希望のプレゼント番号 (○をおつけください) 1 2 3 4 5 6 7</p>	<p>●業種 1.建設・不動産 2.食品 3.繊維 4.化学・薬品 5.機械・精密機器 6.電機 7.その他製造業 8.商社・卸売業 9.小売 10.金融 11.情報関連サービス 12.旅行・観光・ホテル 13.その他サービス業 14.公共団体・主催団体 15.教育関連 16.医療福祉関連 17.設計・施工 18.広告・企画会社 19.イベント関連サービス 20.マスコミ関連 21.その他 ()</p>		
<p>⑧年間購読の資料を希望されますか? YES NO</p>	<p>●職種 1.宣伝・広報 2.販売促進・営業企画 3.営業・販売 4.商品開発・企画 5.調査・企画 6.総務・人事 7.経営全般 8.その他 ()</p>		
<p>●役職 1.会長・社長 2.役員 3.部・次長 4.課長 5.係長 6.その他 ()</p>			

入場券プレゼント

各イベント主催者より入場券をプレゼントいたします。
ご希望の方はP.2~P.3を参照して、ご希望のイベント入場券名のアルファベットをひとつだけ○で囲んでください。

- | | |
|---|---|
| A. SCAN-TECH JAPAN 1998 (10組20名様) | F. 産業展示会&セミナー・フォーラム「'98カラオケ・フェスタ」(50組100名様) |
| B. 建築新技術展/国際セミナーA/E/C SYSTEMS JAPAN'98 (50組100名様) | G. '98教育総合展 (20組40名様) |
| C. IBM総合フェア'98 (25組50名様) | H. JAPAN DIY SHOW '98 TOKYO (10組20名様) |
| D. WORLD PC EXPO 98 (20組40名様) | I. オートアジア'98 ~チューニング&ドレスアップショー~ (10組20名様) |
| E. ダイレクトマーケティングフェア/ビジネスチャンスフェア'98 (50名様) | J. エンタープライズ・システム・ソリューション・パーク'98 (50組100名様) |

資料請求

今号に掲載されている広告の製品・サービス等に関する資料をお求めの方は、に√印をつけてください。

AOLジャパン(表2) フラッシュ(P.6) 住友クレジットサービス(P.9)

日本生命(表4)

přehlídka

HI-TECH UMĚNÍ

prodloužena do 30.10.

INSTALLACE

JEFFREY SHAW, Zentrum für Kunst und Medien, Karlsruhe, BRD
VIRTUAL MUSEUM

PETR WEIBEL, Institut für Neue Medien, Frankfurt
FOUR WORLDS

WOODY VAŠULKA, The Vasulka's, Santa Fe / FaVU VUT Brno
TABLE III / Z CYKLU BRATRSTVÍ

MICHAEL BIELICKÝ, AVU Praha
VNITŘNÍ POZOROVATEL

LUBOMÍR ČERMÁK, AVU Praha
O. S. E. T.

TOMÁŠ RULLER, FaVU VUT Brno
VIRTUÁLNÍ BAZÉN

PERFORMANCE

STELARC, Australia
PSYCHO - CYBER / RECENT ROBOTS & VIRTUAL PERFORMANCES

GRAFIKA

LUCIE SVOBODOVÁ, FAMU, Praha
HOLUSION

ANIMACE

WOODY VAŠULKA, JAN HAMMER, RADEK PILAŘ, PETR VRÁNA, MARTIN HŘEBAČKA

MEDIA - ARCHIV

ARS ELEKTRONICA LINZ, MULTIMEDIALE KARLSRUHE, THE VASULKA'S - LASER DISCS BARCODE ARCHIVE

*v Místodržitelském paláci Moravské galerie
Moravské náměstí 1a, Brno*



spolupřádají

VUT Brno, fakulta výtvarných umění, atelier video - multimedia - performance

&

Moravská galerie v Brně

firma SiliconGraphics Computer Systems

Vysoké učení technické v Brně

fakulta výtvarných umění, atelier video-multimedia-performance

pořádají

17. - 21. října 1994

mezinárodní přehlídku

HI-TECH UMĚNÍ

19. října 1994 od 14.00 do 18.00

symposium

HI-TECH/UMĚNÍ

19. 10. 1994

uvěde a.s.soch. Tomáš Ruller

vedoucí ateliéru video - multimedia - performance fakulty výtvarných umění VUT v Brně

14.00

Woody Vašulka

The Vasulka's, Santa Fe, USA

zakladatel legendárního avangardního kulturního centra The Kitchen v New Yorku, profesor University Buffalo, vedoucí multimediální laboratoře FaVU VUT v Brně, světově známý průkopník umění elektronických medií

15.00

Stelarc

(Stellos Arcadiou), West Melton, Australia

přední umělec tiskového umění Integrující ve svém díle nejnovější technologie

16.00

Gideon May, spolupracovník Jeffrey Shawva

Zentrum für Kunst und Medien, Karlsruhe, BRD

tvůrce speciálních programů pro multimedia, reprezentuje přední Centra pro umění a média v Karlsruhe

17.00

Michael Klein, spolupracovník prof. Petra Weibela

Institut für Neue Medien, Frankfurt, BRD

žyzik a matematik, expert na "teorii chaosu", ředitel Institutu pro nová média ve Frankfurtu



Akce proběhne v Místodržitelstvem paláce Moravské galerie Brno, Moravské náměstí 1a, Brno



Art in America

JULY 199

Sarah Charlesworth
Bonnard at MOMA
Di Suvero in Paris
Report from Korea

\$5.00 USA

\$6.50 CAN £3.50 UK

Woody Vasulka

The Brotherhood

a series of six interactive media constructions

July 17 - August 30
1998

Tokyo Opera City Tower 4F,
3-20-2 Nishishinjuku, Shinjuku-ku,
Tokyo 164-1404
JAPAN
Tel 81-3-5353-0800 / Fax 5353-0900
www.ntticc.or.jp / query@ntticc.or.jp



INTERCOMMUNICATION CENTER

NTT InterCommunication Center [ICC] is
dedicated to envisioning a future society rich
in imagination and creativity through dialogue
among science, technology, art and culture.

ROBERT INDIANA

RETROSPECTIVE 1958-1998

June 26 - November 22, 1998

MUSEE D'ART MODERNE
ET D'ART CONTEMPORAIN

NICE

Tel (334) 93 62 61 62

ROBERT INDIANA

represented by

SIMON SALAMA-CARO

45 East 80th Street, New York, NY 10021
Tel 212.585.3624 Fax 212.585.3623

Woody Vasulka

The Brotherhood

a series of six interactive media constructions

**July 17 - August 30
1998**

Tokyo Opera City Tower 4F,
3-20-2 Nishishinjuku, Shinjuku-ku,
Tokyo 164-1404

JAPAN

Tel 81-3-5353-0800 / Fax 5353-0900
www.ntticc.or.jp / query@ntticc.or.jp



INTERCOMMUNICATION CENTER

NTT InterCommunication Center [ICC] is
dedicated to envisioning a future society rich
in imagination and creativity through dialogue
among science, technology, art and culture.



**STUDIO GUENZANI
VIA EUSTACHI, 10
20129 MILANO
TEL. 39.2.29409231
FAX 39.2.29408080**

りな装置作品「メタメタ」だが、決して明るくはない(30日まで月曜休館)。

新作の一つは、暗い部屋で鈍く光る金属の塊。無意味なほじりた武骨な部屋で粗み上げのれた骨格模型のようだ。それが手術用らしき台の上に。見る人が手前のメタメタに向かって声を叫ばせ、その高低に応じて、身をよじらせ、手足をバタつかせて動く。プシュー、ガッ、ガッ。圧搾空気の音と機械のきしむ音。金属の塊が一瞬にして生命体のように見える。いわば、生物化した機械。

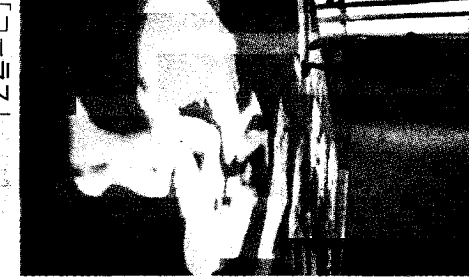
でもじはく見ていると、機械の上にも、かき書きむ人間の姿があるのではないかと感じる。しかも作品名が「サ・メイトウ」つまり「処女」。明るくはない。機械が命を持つ。その上は縛り付けられて、おかし、かし姿は地えない人。巨大メタメタが支配する世界を生きる私たちが、
「ではいか。」
メタメタのメタメタ
「メタメタ」が新連吉美術館
「美術」

館(新潟県新連吉薄分庁で見せる展示室全体を使った四点も、染けな装いの中に、書きをほらんで(10月10日まで月曜休館)。

たどるは「コラス」(九五)は、大きなじゅたんんに、フエリーの映画に登場するよらな来た女性も含め、二十人ほどの男たちが薄く衣だけを羽織って寝転がっている。じゅたんを、つまりその男女を踏み込むと彼らほこめ、気持ちよそらに、苦しように、あるいは驚いたように。この区際をなめるのは単純に楽しいが、気持ちよそらなつて罪悪感を伴う。なかなか、踵を踏むことばできないのだ。じゅたんといふ柔らかな彫像の素材に投影されているため、彫像がある種の厚みを持つからでもあるのだ。

ミケランジェロの天井画を区画させたような構図で、天上から落ちた私たちの姿を示すと同時に、本当の対話は相手に踏み込まなければ成立しない、と語るちつでもある。二つに通じるのは、歴史や社会を認識した深い思考で、対話するほど、自身の存在をそこにはないのではないかと、こころは疎外を感じているのではないかと、どうも不安感を生じさせているのだ。そして、参加や対話ごいさせる点だ。そして、参加や対話ごいさながら、都合が悪くなれば回線を切ってしまうメタメタが広がる今、こつしたつるな関係が広がっているのかもしれない。

彼らは同じメタメタを使い、「対話」を語る対話型「メタメタ」を作ったのだ。(大西 幸人)



「コラス」

「対話」の不安、「対話」で示

「ウッティ・ヴァスルカ」展と「スタジオ・アッスーロ」展から

Ausstellungsort/Venue:
Ausstellungs- und Konferenzzentrum der
Luxemburger Internationalen Messen (FIL)
Exhibition and Conference Center of
Luxemburg International Trade Fair (FIL)

Eine Veranstaltung des Goethe-Instituts
Luxemburg in Zusammenarbeit mit
Luxemburg Kulturstadt Europas 1995
A Luxemburg Goethe-Institut Project in
cooperation with Luxemburg The Cultural
City of Europe 1995

City-Center

Entertainment

Production

Art and Culture

Gate

Social Institutions

Education and Science

On-Line Real Time Tools Interfaces Games Networks Global Interaction Virtual Community

Residential Area

Street

Ausstellungsdauer
Exhibition: 04.11.-12.11.1995

Eröffnung
Opening: 03.11.1995 -
18:00 Uhr/6 pm

Symposium
Symposium: 10.-11.11.1995

Ausstellung und Symposium über die interaktive und vernetzte Stadt
Exhibition and Symposium on the Interactive and Networked City

Durchführung/Realisation:
Medienlabor München/Medialab Munich

Projektleitung/Projectmanagement:
Georg Hartwagner, Stefan Iglhaut, Armin Medosch, Florian Rötzer

Kontaktadresse/Contact:
Medienlabor München/Medialab Munich
Armin Medosch, Corinna Schneider, Susanne Waldmüller

Lothringer Straße 13
D-81667 München

Tel: +49 89 48 40 73
Fax: +49 89 48 40 74

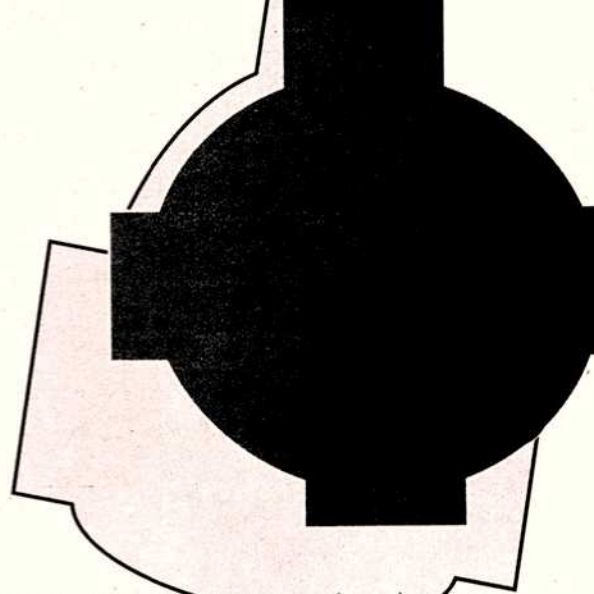
Telepolis

Ausstellung und Symposium über
die interaktive und vernetzte Stadt

Die Stadt als Thema und Leitmetapher eines europäischen Ausstellungsprojekts: Telepolis wird erbaut aus den Sozialutopien der Netzgemeinschaften, aus den digitalen Werkzeugen und Maschinenphantasien, die unsere urbanen Lebenswelten verändern, aus den Visionen von globaler Kommunikation im Computerzeitalter. In Telepolis siedelt sich eine auf Computernetze, auf Kabel- und Satellitenverbindungen gestützte globale Gesellschaft an. Telepolis ist ein neuer, in seinen Dimensionen kaum abzusehender, vielgestaltiger Datenraum, an dem fieberhaft gebastelt und gebaut wird, in dem neue Arbeits-, Kommunikations-, Informations- und Unterhaltungsformen entstehen, bis hin zu Formen von Tele-Existenz und von Tele-Gemeinschaften, die zwar anders als die Existenz im wirklichen Leben sind, aber in vielfältiger Weise auf dieses zurückwirken.

Die Ausstellung baut Telepolis in ihren Funktionsbereichen nach: Zugänge und Verkehrswege der Stadt, City und Marktplatz, Kunst- und Kulturbereich, Sozialeinrichtungen, Bildungs- und Forschungsinstitutionen, Arbeit und Produktion, Vergnügen, Wohnen.

Wir laden Sie ein, an der europäischen Netzstadt Telepolis mitzubauen, als Besucher oder Bewohner, als Produzent und Gestalter innovativer Konzepte. Wenden Sie sich an das Büro Telepolis in München, betreten Sie unsere Baustelle im World Wide Web. Wir freuen uns auf Ihre Teilnahme.



telepolis@mlm.extern.lrz-muenchen.de
<http://www.lrz-muenchen.de/MLM/telepolis.html>

Telepolis

Exhibition and Symposium
on the Interactive and Networked City

The city as a topic and leading metaphor of a european exhibition-project: Telepolis is going to be built out of the utopian concepts for a society as formulated by the network-communities, out of the digital tools and machine-phantasies that are changing our urban environment, out of the vision of global communication in the computerage. A global society based on satellite, cable and computer-networks is settling down in Telepolis. Telepolis is a new diversified data-space whose dimensions cannot yet be predicted, which is constantly being remodelled and updated, where new ways of working, communicating and interacting evolve, reaching a level of tele-existence and tele-society, different from existence in real life, but with effects on this existence that are both, complex and remarkable.

The exhibition is going to set up Telepolis, following its functional districts: The streets of the city, city-center and marketplace, art and culture, social institutions, educational and research institutions, work and production, entertainment, living.

You are invited to join us building the european Telepolis, as a visitor or a citizen, as a producer and creator of innovative ideas. Contact the Telepolis Organisation Office in Munich, visit our construction site in the World Wide Web. We are looking forward to your participation.